



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：新たに指名された科学研究技術大臣の信任を議会在否決

10月29日、イラン議会は、8月より空席になっている科学研究技術大臣に指名されたマフムード・ニーリーアフマドアーバーディー氏の信任を反対多数で否決した。定数290人のうち、246人が出席し、反対160人、賛成79人、棄権7人。保守強硬派を中心に、同氏が2009年の大衆抗議運動である「緑の運動」に近いとの批判があったこと、金属工学の専門家でテヘラン大学の学長であったものの、政界や一般社会では無名であったことなどが指摘された。

8月20日、議会は、ファラジダーナー科学研究技術相（当時）が、2009年の「緑の運動」に参加した教師・学生らの復職・復学を支持したことを問題視し、同氏への不信任案を賛成145、反対110、棄権15で可決した。

評価

改革派に近いロウハーニー政権と、保守強硬派の影響力が強い議会对立を深めている。8月のファラジダーナー氏への不信任案可決と比較すると、今回のニーリーアフマドアーバーディー氏への信任否決は、不信任票が15票も増えている。ロウハーニー大統領は、議会の結果を受け入れると述べているが、そもそも指名された大臣候補に対して議会からこれだけ多くの不信任票が集まること自体が、政府と議会との断絶の証左と言えよう。

科学研究技術相のポストは、大学を始めとする高等教育を所掌としている。改革派が進めようとする大学の自由化や規制の撤廃に対し、保守強硬派からは強い反発があり、それが閣僚人事にまで発展する政治問題化している。今後も後任人事には難航すると見られ、ロウハーニー政権の国内での求心力にも影響しかねない。

(村上研究員)